

発表者氏名：中村友香（京都大学大学院）

タイトル：ネパールにおける糖尿病患者の身体観—疾病概念と治療実践に着目して—

本発表では、ネパール地方都市に住む糖尿病患者たちが日常の中で、自らの患う疾病や身体、食物などをどのように認識しているのかについて論じた。糖尿病は、臨床の場面では食べ物や薬剤服用など患者自身による日常的な配慮が求められる一方で、症状が見えにくく数値によって身体の状態が判断される。近代医学的な知や説明論理に基づき糖尿病を診断・治療する医師に対し、患者たちは自らの身体経験や感覚、身近な社会関係に基づいた疾病認識を行っていた。また、糖尿病の原因については病いをめぐる物語を作らないまま不確かさを残した態度をとった。こうした態度は、物語を曖昧なままにすることによって、疾病を様々な解釈することができる希望を残しておく行為として捉えられると考えた。そうした発表に対し、例えば、一人の患者の語りをより経時的に捉え、患者の身体や疾病の経験を文脈の中で描いていく必要性についてコメントをいただいた。また、薬や食べ物についての説明概念や、アーユルヴェーダ、ヨーガなどの実践についての歴史的・社会的・宗教的背景の分析の必要性もご指摘いただいた。